生物研究

第 XVII 巻 第3・4号
1973
(終巻記念号)

THE LIFE STUDY

Vol. XVII. Nos. 3・4
(Final Issue)
December 25, 1973
FUKUI, JAPAN

目　　次

報　文

台湾産アナバチ科の研究（XV）（英文）……常木勝次…（39）
マメギングチバチの習性……田埜　正…（50）
樹脂を使用するキユビギングチバチの習性……南部敏明…（55）
トゲアシギングチバチについての観察……山田晴昭…（61）
カヤの髄に造られたヒメコシボソバチ類の巣（英文）……常木勝次…（63）
トモンハナバチの巣の1例……前田泰生…（74）
ニッポンジガバチモドキの巣……田埜　正…（77）
フタモンアシナガバチの多雌創巣例の発見（英文）……山根正気…（79）
スズメバチ属ハチ類のコロニー内の分業。Ⅲ，外役活動……松浦　誠…（81）
奄美群島の蜂類……室田忠男…（100）
常木教授採集朝鮮産広腰亜目の蜂類（英文）……富樫一次…（103）
アナバチ科2種の学名変更（英文）……常木勝次…（113）
1972年台湾で採集した蜂類……室田忠男…（115）
山梨県のアナバチ科（第1報）……須田博久…（121）
有剣類の行動等について……官野正雄…（125）
日野山のソボツチスガリの巣……常木勝次…（127）
カギバラバチ類の採集……常木勝次…（128）

採　集　行

山梨県ハチ類採集コース……須田博久…（131）

研　究　手　引

蜂類研究手引（32）。日本産キマダラハナバチ属……常木勝次…（135）

短　報

銀口蜂関係学名変更（49）。　筒巣に寄生したヒメバチ（49）。　ウスキギングチ福井県から初記録（54）。　ジガバチモドキ検索表の訂正（54）。　日本産ジガバチモドキへの追加（54）。　キユビギングチ福井県第2の記録。　岩手・秋田県で採集したアナバチ科（76，南部）。　ガロアギングチとニッコウギングチ（♀，78）。　モウソウタマオナガコバチの習性（99，富樫）。　マルバツツハナバチの巣（112）。　サッポロジガバチモドキ♂福井県で発見（113）。　スミスハムシドロバチの巣（114）。ツマアカツチバチを福井県で採集（120）。　フジジガバチの福井県内新産地（120）。　スギハラギングチについて（126）。　オタネギングチについて（130）。　エゾマエダテの学名変更（134）。　トゲアシギングチについて（150）。　ジガバチモドキの獲物（150）。　埼玉県のアナバチ科（150，南部）。　フタジスズバチの巣（150）。

CONTENTS

K. Tsuneki: Studies on the Formosan Sphecidae (XV) ……(39)
T. Tano: Nesting biology of *Entomognathus brevis* Linden observed in Japan …… (50)
T. Nambu: Biology of *Crossocerus* (*Towada*) *flavitarsus* Tsuneki, using resin to close the nest entrance …… (55)
H. Yamada: Some observations on nesting habits of *Crossocerus denticrus* H.-S. …… (61)
K. Tuneki: Nests of some Pemphredonine wasps in the pith of Miscanthus …… (63)
Y. Maeta: A nest of *Antidium septemspinorum* Lep. …… (74)
T. Tano: A nest of *Trypoxylon nipponicum* Tsuneki …… (77)
S. Yamane: Discovery of a pleometrotic association in *Polistes chinensis antennalis* Per. (79)
M. Matsuura: Intracolonial polyethism in *Vespa*. III. Foraging activities …… (81)
T. Murota: Some aculeate Hymenoptera collected in the Amami group of the Ryukyus ……(100)
I. Togashi: Tenthredinoidea of Korea collected by Prof. K. Tsuneki in 1941-43 …… (103)
K. Tsuneki: Taxonomic notes on two species of Sphecidae …… (113)
T. Murota: Sphecidae, Mutillidae, Scoliidae and Chrysididae collected in Formosa in 1972(115)
H. Suda: Sphecidae of Yananashi Pref., Japan …… (121)
K. Tsuneki: A nest of *Cerceris sobo* on Mt. Hino, Fukui …… (127)
K. Tsuneki: On Trigonaloidea of Japan …… (128)
K. Tsuneki: A guide to the study of the Japanese Hymenoptera (32). The genus *Nomada* Scopoli …… (135)

たりしていますが，脚が滑って踏ん張れません。時々飛び立って廻ってはかじります。その内に何処かえ飛んで行って帰ってきません。茎の繊維が1本突立っています。かなり時間がたってから見ると，体長の2倍くらいの処まで傷付けていました。5時半に見たら孔を抜こうとするところでした。上下に繊維が切れて突立っています。やはり右に体をねじり，抜けると逆になって頭を突込んでかじります。やがて孔に入ると孔口を口でかじるような，なでるような仕草をしています。ハチは1か所をかじっている内に脚が滑るので，上へ上へと傷付けて行くものと思います。6月24日別な株のタケニグサで，午後5時半ごろ孔明け中のハチを見ました。これも右に体をねじって行っています。暫くするとどこかへ飛んで行き帰ってきません。翌朝7時ごろ見ると，ほとんど孔明けが出来て，8時に終りました。孔明けを中断する時間が多いので，4～5時間はかかりそうです。別の巣で4つの巣孔を脱脂綿でふさぐと，一時は飛び去っても全部取除きました。8月に2世代目のハチが出て巣を作るはずですが，タケニグサの基も堅くなり余り見付かりません。1世代目の巣孔は，高さ1米辺に作られ，2世代はそれより下の処に明けられるようです。（安達町宅前）

（4）クロスズメバチ

(1) 昭29・9・5安達町。桑の葉上に多くのハラキンミズアブが止まっている処にハチの1群が来ると，アブは一斉に飛び立つけれど空中で静止するだけです。それを1匹ずつ捕えて葉縁に後脚1本を掛け振り下り，脚と大あごを器用に使ってかみほぐして羽をもぎとり後に飛んで行きます。中には脚を2本掛けたり，葉上で腹面を上に向け頭胸を起こし，中後脚の4本で体を支えて前記の所作を行う例外もかなり見られました。(2) 年月不明午後五時頃同町宅前。アブラムシの落す尿のため樹の枝がスス病で黒くなっている処へハエがいっぱいたかっていて薄暗いです。そこへハチが飛んできて，枝の上を体長の4～5倍の処で静止して，急に落下して飛び上り，また少し先のハエめがけて飛び付いて行きます。なんのことはないハチがぱんぱんとハエ叩きになって，叩き廻っている感じです。しかしハエは飛び立つことなく，ちょっと枝の脇へ体をずらして逃げるので，さっぱり捕えられず，あきて目をそらしている内に，1匹捕えたところでした。

スギハラギングチについて

K. Tsuneki: Taxonomic notes on *Crossocerus* (*Blepharipus*) *pauxilus* (Guss.)

スギハラギングチは初め*Crabro* (*Coelocrabro*) *sugiharai* Iwata とて，樺太，千島の標本に基づいて記載されたものであるが，私はこれをウスリー地方から知られていた*pauxillus* Gussakovskij と同一種と見てこれに移入した。その後この種は日本の諸地方からも知られてきたが，日本中部北部の標本を原記載と照合してみると多少一致しないところがある。原記載（♀）では体長わずか5㎜，脚の明色部の色は淡い栗色とあるが，日本のものは大きさ6－7.5㎜で，脚の明色部は一部を除いて淡黄褐，黄白ないし白である。体長の方はしばらくおくとして，脚の色についてみると，朝鮮のものは済州島のものまで含めて原記載とよく一致する。九州の九重山（白水隆教授採集）の2頭では後脛の基部だけが白で，他は淡褐である。本州中・北部のものの中にも，九重山のものに近いものが多少あって，どうも色を基にして日本のものを別亜種とすることは少し無理のように思われる。ウスリー地方の標本が果して原記載（ただ1頭）のように一般に小さいかどうかにも問題があるので，スギハラギングチはやはり原種と同列におくほうがよいようである。（被検標本♀，朝鮮産3，九州2，本州10；♂，千島1，本州5）　（常木）